



きらっと彦根

彦根の魅力★再発見



彦根・銀座商店街

“彦根銀座商店街の防災建築街区の将来について考える”

私は、立命館大学で、まちづくりや建築設計を教えている教員です。3年前に彦根銀座商店街のある商業者のかたから、「古いビルが抱えている問題をどのように解決したらよいのか?」とご相談を頂いたのがきっかけで、商店街の将来を研究室の学生と一緒に考えていく機会を頂きました。

銀座商店街は、彦根城下町の南に位置し、現在もJR彦根駅や彦根城まで約1kmの中心市街地の中にあります。1960年までは、木造建築が沿道に密集しており、火災に対する防災面での課題を抱えていました。しかし、全国に先駆けて、都市計画街路整備と合わせた防災建築街区造成事業により、1961年頃から1973年頃までの期間に、約10億円の事業費をかけて、近代的なビル群へと生まれ変わり、彦根市の中心商業集積地が確立されました。ところが、近年、後継者不足や郊外への出店により、空き店舗及び空き住戸が増加しています。また、防災建築街区造成事業により整備された建物は、竣工から約60年が経ち、老朽化が進んでいます。2016年には、外壁の崩落事故もあり、商店街のみなさんは、問題を解決すべく、彦根市と一緒に様々な検討を行ってきましたが、未だその解決には至っていません。

そこで、私たちは、商店街のみなさんのお話をお聞きし、現状の問題点を確認しました。1つ目は、階段及び動線計画の問題です。階段が店舗の奥に位置するため、上階を別のテナントに貸すことができない。逆に、ビルの所有者が1階だけをテナントに貸したくても、その所有者が上階を自己用の倉庫や住宅等に使用し続けたい場合、1階だけを貸し出すことができなくて困っています。2つ目は、低未利用の空き床の増加です。建物の老朽化やビルの所有

者の高齢化、またビル内外の動線などの問題点から、使われていない空き店舗や倉庫になっている部屋が多い。特に、上階の倉庫などは、不動産情報として流通していないため、放置されている場合が多いことが分かりました。3つ目は、屋上の未利用及び防水の問題です。彦根銀座街の防災建築街区の特徴として、複数のビルが繋がっているため、一体的に利用すれば、広い屋上空間を確保できる可能性があります。しかし、実際には普段は人が上がることもなく、見晴らしが良い屋上の空間が使われていません。また、建物がつながっているため、屋上防水の施工範囲が課題になっていることが分かりました。

これらの問題を一つ一つ解決し、ビルのリノベーションや将来の建て替えの可能性について話し合うために、2020年に「彦根銀座まちづくり懇談会」を設立しました。この会では、商店街のみなさんだけでなく、古いビルを活用したいと考えている人、専門家、大学生が集まり、古いビルの価値をみんなで共有するために、見学会・ワークショップ・屋上を活用したイベントなどを行ってきました。このような取り組みに、一人でも多くの方々に参加して頂くことが、彦根銀座の防災建築街区の課題解決につながると信じています。

(立命館大学理工学部准教授 阿部俊彦)



足軽組屋敷が残る

芹橋らしいまち並みデザインガイドをつくる③

去る8月27日、第5回研究会「芹橋らしいまち並みデザインガイド報告会」が行われました。昨年12月からスタートした4回の研究会では、専門家のレクチャーや住民同士が話し合うワークショップが行われ、まちの歴史や魅力的なまちの設えを学びながら、住む人も訪れる人も心地よいまちのデザインとは何か？どういふことを大切にすべきか？を、住民の皆さんと共に考えました。今回は、その取りまとめの報告会でした。

最初のころの意見交換では、「道が狭い」「廃墟になっている」など、悲観的な意見が多く、悪いところばかり目立つ印象でした。第3回の研究会では、建築家の松井郁夫さんから越前大野や郡上八幡での城下町のまちづくりのお話を伺い、また具体的な修景の例も示していただき、参加者の皆さんにも大変わかりやすく参考になったと思います。

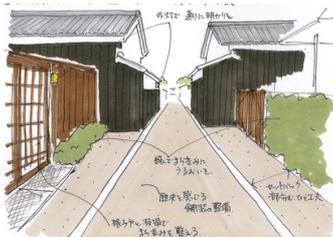
この研究会では、住民の皆さんの意見をもとに大切にしたい4つの目標をまとめました。

- ①道路際の設えを工夫し、通りと建物をゆるやかにつなぐ
- ②素材や色彩・デザインの調和したおだやかなまち並みをつくる
- ③歴史・文化資源を大切に生かす
- ④自然や緑を取り込んだまち並み景観をつくる

これらの目標は抽象的で何の縛りもかけるものでもありませんが、住民の皆さんが共有できる目標として、「芹橋らしいまち並み」を考えるきっかけになればと思います。さらにこれらの目標を実現するためには、気軽に相談できる相談窓口の必要性も報告会で話し合われました。

研究会の成果として「デザインガイド」の冊子を作成する予定です。これをスタートとして、継続的にこの「デザインガイド」を深める活動が進むことを期待します。

(彦根景観フォーラム 笠原啓史)



①道路際の設えを工夫し
通りと建物をゆるやかにつなぐ



②素材や色彩・デザインの調和した
おだやかなまち並みをつくる



③歴史・文化資源を大切に生かす



④自然や緑を取り込んだまち並み
景観をつくる

さとの宿だより

180万年前の大地を行く里山自転車ツアー

9月、さとの宿は実りの秋を迎えます。田んぼの稲は黄色く稲穂を实らせ、蕎麦の白い花や真っ赤な曼珠沙華が咲き、里山の景観は賑やかになっていきます。サイクリングには一番気持ちのいい季節です。

さとの宿では「里山自転車さんぽ」という自転車ツアーをしています。ガイドは、サイクリスト歴35年の沢太治さん。お客さまに合わせて、細かな内容を決めたり、河原で挽きたてのコーヒーをふるまったりしてくれます。

コースは3種類。鈴鹿山系の里山として、古くから神々の伝説のあるこの地をめぐる「里山ぶらり散歩コース」、森林浴を楽しみながら芹川べりを行き、巨大鍾乳洞をめざす「河内風穴探訪コース」、深山を抜け中山道の鳥居本宿を通り、一気に「琵琶湖に舞い降りるコース」などなど。HPではYouTube動画で紹介しています。

ところで、この大地を行くコース、180万年前のアケボノゾウの化石が近年見つかっています。よく知られるナウマンゾウは、3〜34万年前のいきものということですから、相



実りの秋を迎えています。

当古い地層の上を自転車で行っていることになります。

多賀町は、山もあり田も畑もあり、米も麦も蕎麦も採れます。いにしえからいろいろな食物が作られる一方、山にはアケビや柿、栗、マツタケ、溪流にはビワマス、鮎などの魚もいて、琵琶湖にも近く、神様もゾウたちも楽しく暮らしていたんだろうなあと、この季節、自転車に乗りながら、いつも思っています。(江竜美子)



多賀さとの宿 一圓屋敷

<https://www.ichienyashiki.jp/>

〒522-0317 滋賀県犬上郡多賀町一円149

Tel. 050-3319-1050 info@ichienyashiki.jp